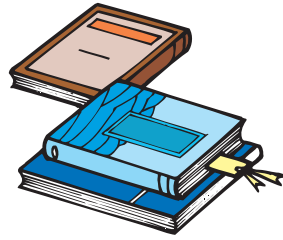


ほんの森

図書館 ☎84-3311



図書館休館日
毎週月曜日

日曜映画会

『凶器にもかわる携帯電話-中高生の自己防衛』他1作品

と き 8月17日(日)
午前10時・午後2時
上映時間 41分
ところ ハイビジョンホール
定員 各回 先着100名
※整理券は不要です



金曜映画会

『北極のナヌー』

と き 8月22日(金)
午後2時から
上映時間 1時間34分
ところ ハイビジョンホール
定員 先着100名
※整理券は不要です



文芸

◆俳句

何人なく欲しき潤ひ夏隣 池田 逸子
坂の道北鎌倉の七変化 伊藤 敬子
七夕や天と地ほど世は変わり 伊藤 定男
背な丸め茶呑み友達夕端居 今関満喜子
生垣の緑輝く梅雨晴間 魚地 照子
たちまちに子等の声満つ梅雨晴間 江森 悦子
七夕や叶わぬ願い短冊に 大谷 武彦
八十を遊ぶすひ孫梅雨晴間 川島 孝夫
灯の下にせわしく輪を画く金亀蟲 桑名 大行
ゴルフ場遠く飛ばして蛇母 向後 寛
夢とても七夕ロマン今一度 越川 福子
彦星が光りて皿に冷奴 越川 義則
アヤメ田や花芽競ひて天をつく 小松 藤男
屋形船四葩あかりの中のぼる 佐瀬 輝夫
風湧くや泰山木の花見たり 穴倉 道子
人よりも一步遅れて泉汲む 玉虫 栗扇

◆短歌

七夕や背伸びし飾る幼き子 土屋美枝子
生かされて生きて今宵のほととぎす 戸村 静華
冷房の部屋より眺むる蜜かな 長谷川正子
師の遺品受けて辞するや霊おくり 福田 幸子
梅落す後期高齢者と言はれても 布施 和代
端居して携帯電話の人と逢う 山口 とし
掌に澄める命の泉飲む 山口 とし
女郎蜘蛛空中ブランコしてゐたり 渡部 和秋
大空を仰ぎ見るたび思い出す 鈴木 益郎
亡き戦友等の凜たる姿を 書き損じ丸めて捨てし紙切れが 笑ふがごとく静かに開く 高梨 キヨ
四苦八苦対に吾が歌まとまらず 明日締め切りの夜更けとなりぬ 土屋 好
花終へて深き緑となりし木の葉群を揺する六月の風 佐瀬 初音
青田原日にけに色の深まりてはや中干しの時期の来たりぬ 押尾 輝子
ジャスマシンの香りに似たる忍冬 田崎 尚美
くりやの棚に飾りおきたり 吉岡 信子
ご先祖が祀りくれたる庚申塔 今も里人守りくれます 永藤 滋
降る雨のたまりし青葉いくそたび しづく為利那たをたを揺るる 池田 春江
てつぼう百合の香りを夫に届けむと 開き初めしをさ庭より切る 鈴木まさ子
高台に大和の国のロマンなる 大和武尊と媛の像建つ 八角 三枝
ドライフラワーにせむと吊せし紅花が 五月の風に揺れてゐるなり 平山 芳子
若き日の想ひ出語る赤十字の 有功会の総会楽し 島田ますみ
赤ペンで新聞に記しをする人の 頭の中に走る馬あらむ 芹川 初子
流れ来る祇園囃子に亡き父と 山車を引きたる幼な日思ふ 西山満里子
古りし飯炊飯器のままの形にて 雨に濡れるつ捨てられし場に 手造りの人形友より戴きぬ 齊藤つね子
八十路の今も創りあるとふ